

令和5年度 共生ビジョン取組事業 実施状況

南阿波定住自立圏共生ビジョン取組事業の一覧

協定での位置づけ				No.	事業名
① 生活機能の強化	ア	医療	医療機関の機能分化とネットワーク化	1	地域医療啓発・連携等支援事業
				2	医師確保対策事業
	イ	福祉等	こども園等の広域入所制度の導入推進	3	こども園等広域入所に関する連携事業
	ウ	教育	圏域内図書館相互の連携強化及び拠点図書館の整備による図書館サービスの充実	4	図書館相互利用促進事業
				5	図書館蔵書充実事業
	エの1	産業振興	広域観光圏の形成	6	広域観光圏実現事業
				7	遍路道等文化財活用観光振興事業
			圏域農山村の鳥獣害防止	8	鳥獣被害防止対策事業
			企業誘致の推進	9	企業誘致広域プロジェクト事業
	エの2	環境	森林資源を活用したバイオマスタウン構想の推進	10	竹資源等有効活用推進事業
	オ	大規模災害支援体制の充実	大規模災害発生時における相互応援	11	大規模災害時の相互応援支援体制整備事業
				12	防災対策相互支援基盤整備事業
				13	災害時水道復旧相互応援体制の整備事業
② 結びつきやネットワークの強化	ア	地域公共交通	地域公共交通ネットワークの構築	14	生活交通確保維持事業
	イ	道路等の交通インフラの整備	流通経路整備への取組	15	高速自動車道整備促進事業
				16	国道55・193・195号整備促進事業
				17	県道(主要地方道)整備促進事業
	ウ	地域の生産者や消費者等の連携による地産地消の促進及びブランド化や6次産業化、継業支援等による地域産業の持続・活性化	地域資源を活用した地産地消の拡大及びブランド化や6次産業化、継業支援等の検討	18	地元農水産物魅力アップ事業
	エ	移住交流の推進	移住交流推進の支援	19	空き家情報の連携事業
	オ	観光ネットワークの拡充	地域資源を活用した観光ネットワークの相互拡充	20	野球のまち阿南推進事業
				21	スポーツ大会交流促進事業
	カ	安全・安心	中心市の消費生活センターの有効利用	22	阿南市消費生活センターの周知及び利用推進事業
	キ	公共施設の相互利用	公共施設の相互利用の促進	23	スポーツ施設相互利用促進事業
				24	火葬場使用料軽減事業
				25	子育て支援センターの相互利用に関する連携事業
				26	女性支援パートナーシップ事業
③ 圏域マナジメント能力の強化	ア	圏域内における人材育成	職員の政策課題への対応能力向上	27	職員人材育成事業
			地域リーダーの育成	28	廃棄物の不法投棄撲滅に向けてのリーダー育成事業
				29	成人大学講座連携事業
	イ	圏域内市町村の職員等の交流	行政力向上のための職員交流	30	人事労務担当職員研修(交流)事業

事業名	1	地域医療啓発・連携等支援事業
-----	---	----------------

事業概要	救急医療体制の維持を図るため、病院等の適正利用に向けての啓発を行う。 病院、診療所等との間で診療情報を共有できる体制づくりの支援等を検討する。
事業効果	救急医療機関への安易な受診を抑制することにより、救急病院の医師等の負担軽減と救急医療体制の安定化を図られる。 医療機関の間での診療情報のネットワーク化により病院連携、病診連携体制の強化が図られる。

■ 重要業績評価指標(KPI)の状況

指標	現状値 (ビジョン掲載)	調査 時点	前年度実績	調査 時点	今年度実績	調査 時点	目標値	達成 年度	備考

■ 実績等の状況

R5 年度 の 取 組 内 容	ポスター等を掲示し、救急医療機関への安易な受診の抑制を呼びかけることで、救急病院の医師等の負担軽減と救急医療体制の安定化を図った。
-----------------------------------	---

■ 事業推進に係る特記事項（今後に向けての展望、懸案・要望事項、反省点、所感等）

救急医療体制の維持を図る為、ポスターの掲示のみならず、検診や訪問等の事業を通じて安易な受診を控えていただくよう、広く周知し、病院等の適正利用の啓発に努めていく。 医療機関の間での診療情報のネットワーク化については、各医療機関の電子カルテシステム構築に高額な費用が発生すること、また、個々のシステムの互換性の問題等が生じることから、事業の推進はできていなかったが、今後マイナンバー制度の導入により、診療情報のネットワーク化が図られ、他の医療機関や薬局等、より多くの情報に基づき総合的な診断・投薬ができるようになると思われる。
--

事業名	2	医師確保対策事業
-----	---	----------

事業概要	・公的病院である阿南医療センターに対して、分娩手当補助等の支援をすることにより、産科医等の処遇を改善し、医師不足の中でも医療機能の維持に努める。 ・地域医療の担い手の確保及び人材育成の為、阿南地域医療教育センターに対する支援を行う。
事業効果	勤務医の事務負担を軽減することにより、執務環境の向上を図る。 慢性的な医師不足に陥っている公的病院の医師確保が推進される。

■ 重要業績評価指標(KPI)の状況

指標	現状値 (ビジョン掲載)	調査 時点	前年度実績	調査 時点	今年度実績	調査 時点	目標値	達成 年度	備考
医師確保数	7人	R2 年度	9人	R4 年度	9人	R5 年度	9人	R6 年度	

■ 実績等の状況

R5 年度 の 取 組 内 容	①地域医療拡充支援事業補助金【阿南医療センター】(4-1-1-15003) 阿南医療センター内に開設される阿南地域医療教育センターを拠点として実施する徳島大学の寄附講座に係る経費の一部を助成する。補助額 75,000千円 ②医師事務負担軽減支援事業補助金【阿南医療センター】(4-1-1-15003) 5名 補助額 3,250千円 ③産科医師確保対策事業補助金【阿南医療センター】(4-1-1-15003) 阿南医療センターにおける産科医師の確保を図ることを目的に、派遣医師の分娩手当の一部を補助する。 補助額 85千円(那賀町・美波町から17千円)
-----------------------------------	---

■ 事業推進に係る特記事項（今後に向けての展望、懸案・要望事項、反省点、所感等）

地域医療拡充支援事業補助金における寄附講座の設置期間は、令和2年から令和6年度までである。県南の医療の核として、安心して医療が受けられる体制を維持するため、令和7年度からも事業継続の確保が必要であると考え。また、継続するうえで、定住自立圏内の公立病院等に医師の派遣ができるシステムの構築が重要である。 医師事務負担軽減支援事業補助金及び産科医師確保対策事業補助金は、不足する産婦人科及び小児科医の処遇を改善し、診療の効率化を図り、安心して出産・子育てができるよう県南の医療提供体制を整えることは1市4町の課題であり、次期定住自立圏共生ビジョン策定時には各市町村の負担の在り方について検討が必要ではないかと考える。

事業名	3	こども園等広域入所に関する連携事業
-----	---	-------------------

事業概要	他の自治体に勤務する保護者などを対象に、圏域内にあるそれぞれのこども園等への広域入所を連携して実施する。また、各こども園等が実施する一時的保育、延長保育等の保育サービスについても対象とする。
事業効果	児童の受入体制の充実により、保護者の仕事と育児の両立が図られ、子育てに対する不安が解消されるとともに、利用者の利便性が向上する。

■ 重要業績評価指標(KPI)の状況

指標	現状値 (ビジョン掲載)	調査 時点	前年度実績	調査 時点	今年度実績	調査 時点	目標値	達成 年度	備考
待機児童数(4月入所)	6人	R2 年度	0人	R4 年度	0人	R5 年度	0人	R8 年度	

■ 実績等の状況

R5 年度 の 取 組 内 容	保育所の広域利用者は、阿南市から那賀町へ6人、美波町へ4人の合計10人の利用があった。一方、那賀郡、海部郡から阿南市への広域利用者は、0人だった。
-----------------------------------	---

■ 事業推進に係る特記事項（今後に向けての展望、懸案・要望事項、反省点、所感等）

保育所の広域利用サービスは、「南阿波定住自立圏共生ビジョン」に掲げる事業だけでなく、徳島県内では23市町村の自治体で広域利用の協定を結び、スムーズな保育所入所を推進している。

事業名	4	図書館相互利用促進事業
-----	---	-------------

事業概要	・圏域内の住民が、圏域内の図書館において、利用者登録が可能となるよう、取扱いを拡充する。
事業効果	・圏域内の図書館を広域利用しやすい環境を整備することで、圏域住民の図書館利用促進及び学習環境の向上が図られる。

■ 重要業績評価指標(KPI)の状況

指標	現状値 (ビジョン掲載)	調査 時点	前年度実績	調査 時点	今年度実績	調査 時点	目標値	達成 年度	備考
電子図書館貸出数	1,599冊	R2 年度	16,181冊	R4 年度	14,063冊	R5 年度	3,000冊	R8 年度	
相互利用人数	5,462人	R2 年度	4,927人	R4 年度	4,920人	R5 年度	4,000人	R8 年度	

■ 実績等の状況

R5 年度 の 取 組 内 容	1 担当者会(各図書館の本事業担当者で集まって情報交換、事業促進のための方策について検討)を令和6年2月に開催した。 2 各図書館で新規登録者に対し、定住自立圏内在住者は、圏内図書館の利用が可能であることを説明、住所地以外の図書館で相互利用制度を使って利用を希望する人に利用者カードを発行した。 3 各図書館において、阿南市電子図書館パスワードの発行、利用促進をした。
-----------------------------------	--

■ 事業推進に係る特記事項（今後に向けての展望、懸案・要望事項、反省点、所感等）

電子図書館貸出数をKPIに設定していたが、令和3年度より阿南市内の小学6年生全員に電子図書館パスワードを配布したため、貸出数が激増した。電子図書館の統計は住所地別、年齢別に集計することができないため、定住自立圏の取組みによる効果が数値からは読み取れない状況である。このことから、貸出数によらず、新規パスワード発行者を増やすための取組みを推進する。

事業名	5 図書館蔵書充実事業
-----	-------------

事業概要	・圏域の拠点となる阿南市立図書館3館は、幅広い蔵書の充実に努める。 ・圏域内の他の図書館は、基本的な蔵書の充実に努める。 ・電子図書館のコンテンツの充実及び利用促進に努める。
事業効果	拠点図書館を核として、圏域内全体として、蔵書の質、量を充実することで、圏域住民の図書館利用促進及び学習環境の向上が図られる。

■ 重要業績評価指標(KPI)の状況

指標	現状値 (ビジョン掲載)	調査 時点	前年度実績	調査 時点	今年度実績	調査 時点	目標値	達成 年度	備考
相互利用冊数	25,679冊	R2 年度	26,533冊	R4 年度	23,399冊	R5 年度	21,000冊	R8 年度	

■ 実績等の状況

R5 年度 の 取 組 内 容	1 各館とも蔵書の充実に向け、利用ニーズに沿った選書を実施し、図書を購入した。 2 阿南市電子図書館の運営、広報 昨年度と引き続き、阿南市において定住自立圏予算以外で電子図書館のコンテンツ使用料を計上し、児童書の電子書籍コンテンツの充実を図るとともに、図書館窓口で利用の促進につなげるための取り組みを行った。
-----------------------------------	---

■ 事業推進に係る特記事項（今後に向けての展望、懸案・要望事項、反省点、所感等）

相互利用冊数は目標値を上回っているが、全体では減少傾向にある。各館とも利用につなげる蔵書構成の検討を行うとともに、定住自立圏内の相互利用制度についての周知に努める。
--

事業名	6 広域観光圏実現事業
-----	-------------

事業概要	・1市4町の観光資源の掘り起こし、各地域の通年の魅力の継続的な情報発信。 ・四国東南部の連携、体験型観光(よくばり体験等)の推進や圏域外に向けた物産展等によるPR活動等、圏域内相互の連携によって観光圏の形成を図る。
事業効果	1市4町に存する観光資源を掘り起こし、各地域の通年の魅力を継続的に情報発信しながら相互に連携と協力を行うことにより圏域全体の活性化が図られる。

■ 重要業績評価指標(KPI)の状況

指標	現状値 (ビジョン掲載)	調査 時点	前年度実績	調査 時点	今年度実績	調査 時点	目標値	達成 年度	備考
観光客入込数	1,316,708人	R2 年度	1,284,551人	R4 年度	1,355,264人	R5 年度	2,000,000人	R8 年度	
イベント来場者数	34,500人	R2 年度	81,100人	R4 年度	106,102人	R5 年度	200,000人	R8 年度	

■ 実績等の状況

R5 年度 の 取 組 内 容	①地域ディレクター育成 地域の魅力を発見・発信する「地域ディレクター」を発掘、育成する。 構想・企画・制作(取材)といった番組づくりを地域で行い、映像制作やラジオ事業を実施する。 制作した映像は県内ケーブルテレビで放送中の「とくしまンボ」にて放送。 写真や動画の撮影研修を実施し、スキルアップを図る。 ②ソーシャルメディアの活用 映像を動画サイトyoutubeにて配信。ラジオ放送もインターネットラジオとして全国で聴取可能。 FacebookやTwitterによる配信映像の紹介並びに観光及びイベントのPR。 ③道の駅日和佐観光案内所での広域対応 ④「徳永かめたろう」の観光圏域内への派遣 ⑤大阪で圏域の観光PR・特産品の販売を行った。
-----------------------------------	---

■ 事業推進に係る特記事項（今後に向けての展望、懸案・要望事項、反省点、所感等）

一般社団法人四国の右下観光局や四国南東部広域観光協議会、阿佐海岸鉄道を活用した観光振興との連携の検討が必要。 電波やSNSなどで阿南市の魅力を広く発信するためには、紹介することができる地域ディレクターの育成が必須である。 また、1市4町の地域ディレクター同士の連携と協力により、圏域全体の活性化を図る必要がある。
--

事業名	7	遍路道等文化財活用観光振興事業
-----	---	-----------------

事業概要	世界遺産への登録を目指している各市町を通る遍路道や四国八十八箇所霊場に加え、周辺の文化財等について、地域に根ざした観光資源として活用するため、広報・パンフレットなどの情報発信や、環境整備等により圏域の一体的な観光振興を図る。
事業効果	各市町を訪れるお遍路や観光客に対してより良い遍路環境を提供し、圏域内の魅力ある地域資源を効率的・効果的に発信することにより、観光資源の魅力向上に資するとともに、地域の活性化が図られる。

■ 重要業績評価指標(KPI)の状況

指標	現状値 (ビジョン掲載)	調査 時点	前年度実績	調査 時点	今年度実績	調査 時点	目標値	達成 年度	備考
イベント来場者数	0人	R2 年度	70人	R4 年度	80人	R5 年度	200人	R8 年度	
イベント開催数	0回	R2 年度	1回	R4 年度	1回	R5 年度	3回	R8 年度	

■ 実績等の状況

R5 年度 の 取 組 内 容	令和5年11月25日に「あなん遍路おもかげウォーク開催」を開催。開催場所は阿南市内の阿南市大井町から太龍寺に至る「太龍寺道」、そして太龍寺から加茂町一宿寺に至る「かも道」の約10キロの遍路道である。参加人数は県内外から80名の参加者が集まった。イベントでは令和3年度に作成した遍路観光マップを活用。道だけでなく周辺の観光地を紹介した。イベントを通じて遍路道をただ歩くだけでなく、その歴史や周辺文化財の解説をガイド行うことにより地域の魅力を伝え、発信することができた。 令和3年度に作成した遍路観光マップについては、改めて公共施設に配布し、周知に努めた。
-----------------------------------	---

■ 事業推進に係る特記事項（今後に向けての展望、懸案・要望事項、反省点、所感等）

イベント参加者80名内50名が阿南市からで、ほか30名が阿南市外となるが、那賀町からの参加者が1名のみと県南部の参加者が今年度は非常に少なかった。今後は市町を跨いだイベントを実施するよう計画を進める。
--

事業名	8	鳥獣被害防止対策事業
-----	---	------------

事業概要	圏域の各市町が連携して有害鳥獣の一斉捕獲等を行うとともに、設備導入に対する支援等の充実を図る。 また、捕獲獣肉等の活用を検討する。
事業効果	圏域の各市町が連携して従来から独自で行っている対策（駆除・設備導入支援）の効果を高めることにより農業生産の維持と農作物の被害軽減が図られる。

■ 重要業績評価指標(KPI)の状況

指標	現状値 (ビジョン掲載)	調査 時点	前年度実績	調査 時点	今年度実績	調査 時点	目標値	達成 年度	備考
有害鳥獣捕獲数 (シカ・イノシシ・サル)	5,398頭	R2 年度	6,073頭	R4 年度	5,201頭	R5 年度	5,400頭	R8 年度	阿南市1,612頭

■ 実績等の状況

R5 年度 の 取 組 内 容	○有害鳥獣の捕獲者への報償金の支給(国費事業) 阿南市・那賀町・美波町・牟岐町・海陽町 ○電気柵・ワイヤーメッシュ柵等の設置導入に対する補助の実施(市・町単事業) 阿南市・那賀町・美波町 ○捕獲獣肉等の活用(ジビエ等)の推進 阿南市・那賀町・牟岐町 圏域内の各市町の取組等について情報共有を図り、圏域内における鳥獣被害の防止に努めた。
-----------------------------------	---

■ 事業推進に係る特記事項（今後に向けての展望、懸案・要望事項、反省点、所感等）

今後も圏域内の市町の取組等について情報共有を図り、有害鳥獣の被害防止に努める。

事業名	9	企業誘致広域プロジェクト事業
-----	---	----------------

事業概要	圏域の特性を活用し、雇用効果の大きい経営基盤の安定した優良企業の立地を促進する。
事業効果	圏域内の企業誘致に努めることで、住民の雇用促進を図る。

■ 重要業績評価指標(KPI)の状況

指標	現状値 (ビジョン掲載)	調査 時点	前年度実績	調査 時点	今年度実績	調査 時点	目標値	達成 年度	備考
企業誘致フェアへの参加	0回	R2 年度	2回	R4 年度	0回	R5 年度	3回	R8 年度	

■ 実績等の状況

R5 年度 の 取 組 内 容	新型コロナウイルス感染症5類移行後間もないこともあり、企業立地フェアに参加することができなかった。
-----------------------------------	---

■ 事業推進に係る特記事項（今後に向けての展望、懸案・要望事項、反省点、所感等）

- ・新型コロナウイルス感染症の5類以降間もないこともあり、参加のない自治体もあった。今後、県外出張等の規制等が撤廃されたなかで、企業立地フェア等に連携して参加する枠組みを再開していきたい。
- ・ふるさと未来課等関係課と協議し、合同でのブース出展等ができないか検討する。

事業名	10	竹資源等有効活用推進事業
-----	----	--------------

事業概要	圏域の森林資源について調査し、有効活用について検討することにより、放置林・放置竹林の解消や地域振興を目指す。
事業効果	放置林・放置竹林解消の一助となるとともに、新たな雇用の創出が期待される。

■ 重要業績評価指標(KPI)の状況

指標	現状値 (ビジョン掲載)	調査 時点	前年度実績	調査 時点	今年度実績	調査 時点	目標値	達成 年度	備考
竹資源等有効活用	27t	R2 年度	25.2t	R4 年度	23.7t	R5 年度	30t	R8 年度	

■ 実績等の状況

R5 年度 の 取 組 内 容	阿南市スポーツ総合センターにおいて、阿南市内の放置竹林を整備した際に出た竹をチップ化し、竹チップをバイオマス小型炉にて燃焼させることにより、温水プールの加温補完を行った。
-----------------------------------	---

■ 事業推進に係る特記事項（今後に向けての展望、懸案・要望事項、反省点、所感等）

現在は木チップとの混焼にて行っているが、今後竹チップの割合を増やしていけるのか、放置竹林整備により得られた竹資源を有効活用することができるのか検証していく必要がある。

事業名	11	大規模災害時の相互応援支援体制整備事業
-----	----	---------------------

事業概要	徳島県市町村消防相互応援協定に基づき、圏域内で発生した災害に対応が困難となった市町に対して人的・物的支援を行う。 なお、相互応援体制強化のため、体制づくりについて検討・協議する。 救急搬送体制の強化については、今後、医療機関等との協議を重ねる。
事業効果	災害時における相互応援支援体制を構築することにより、圏域住民への安全・安心の確保が図られる。

■ 重要業績評価指標(KPI)の状況

指標	現状値 (ビジョン掲載)	調査 時点	前年度実績	調査 時点	今年度実績	調査 時点	目標値	達成 年度	備考
徳島県消防広域応援計画に基づく訓練実施回数	4回	R2 年度	6回	R4 年度	11回	R5 年度	4回	R8 年度	

■ 実績等の状況

R5 年度 の 取 組 内 容	- 令和5年度徳島県広域消防相互応援協定に基づく情報伝達訓練 (上半期 ブロック内応援 実施日 4月24日)(下半期 県内広域応援 実施日10月20日) - 徳島県土砂風水害機動支援部隊訓練(実施日 5月22日) - 緊急消防援助隊の応援に関する情報伝達訓練(実施日 6月20日) - 令和5年度大規模災害時医療活動訓練(実施日 9月30日) - 令和5年度徳島県広域消防相互応援協定に基づく第1ブロック合同訓練(実施日10月3日) - 令和5年度徳島県石油コンビナート等総合防災訓練(実施日10月25日)新日本電工 - 令和5年度緊急消防援助隊中国・四国ブロック合同訓練(実施日10月28日・29日)岡山県 - 令和5年度阿南市総合防災訓練(11月26日)椿地区 - 令和5年度徳島県国民保護共同訓練(令和6年2月1日)桑野地区 - 令和5年度四国の右下防災旬間関連事業(令和6年2月18日)新野町
-----------------------------------	---

■ 事業推進に係る特記事項 (今後に向けての展望、懸案・要望事項、反省点、所感等)

今後に向けても、各消防本部間の連携強化及び災害対応能力の向上を図る事を目的とした、実践的な訓練の継続を実施していく。
--

事業名	12	防災対策相互支援基盤整備事業
-----	----	----------------

事業概要	災害時各避難所等における圏域市町の備蓄情報の共有及び資機材の共同整備等を行い、より効果的・効率的な相互支援体制を構築する。
事業効果	災害時における相互支援基盤が強化され、圏域住民への安全・安心の確保が図られる。

■ 重要業績評価指標(KPI)の状況

指標	現状値 (ビジョン掲載)	調査 時点	前年度実績	調査 時点	今年度実績	調査 時点	目標値	達成 年度	備考
合同防災訓練の実施	2回	R2 年度	2回	R4 年度	2回	R5 年度	2回	R8 年度	

■ 実績等の状況

R5 年度 の 取 組 内 容	阿南市 マット 400枚 1,232,000円、タオルケット 200枚 946,000円 那賀町 トイレ処理セット(50回分)5箱 247,500円 美波町 毛布 150枚 627,000円 牟岐町 蓄電池発電機(ソーラーパネル付)2台 298,760円 海陽町 実績なし 災害時における圏域市町の備蓄情報の共有及び資機材の共同整備等を行い、より効果的で効率的な相互支援基盤が強化され、圏域住民の安全・安心の確保が図られた。
-----------------------------------	--

■ 事業推進に係る特記事項 (今後に向けての展望、懸案・要望事項、反省点、所感等)

1市4町での取り組みとして、災害用備蓄品について計画的に購入を行う。 防災担当者会議の開催についても定期的に行い、お互いの顔を見ながら意見交換ができる状況を作り出す。
--

事業名	13 災害時水道復旧相互応援体制の整備事業
事業概要	災害時において、ライフラインである水道復旧について1市4町での応援体制を確立する。
事業効果	災害時におけるライフラインを早急に復旧することで、圏域住民の生活の安定を図る。

■ 重要業績評価指標(KPI)の状況

指標	現状値 (ビジョン掲載)	調査 時点	前年度実績	調査 時点	今年度実績	調査 時点	目標値	達成 年度	備考
相互応援体制のための各種 検討会等の開催	年1回	R2 年度	1回	R4 年度	1回	R5 年度	年1回	R8 年度	

■ 実績等の状況

R5 年度 の 取 組 内 容	○令和5年11月22日、那賀町(那賀町地域交流センター)において災害支援部会を開催し、各市町の取組状況の確認と、連携強化に関する意見交換を行い、相互応援体制の強化を図る。 ○令和6年3月6日、美波町において日本水道協会徳島県支部ブロック別(阿南市、美波町、牟岐町、海陽町)防災訓練に那賀町も参加し、1市4町(南阿波定住自立圏域)での合同防災訓練を実施。訓練では、情報伝達、参集訓練と意見交換を行い連携強化を図った。
-----------------------------------	---

■ 事業推進に係る特記事項 (今後に向けての展望、懸案・要望事項、反省点、所感等)

本協定における災害時水道復旧相互応援では、主な応援内容を応急給水支援に関することとし、必要な職員の派遣や資機材の相互利用を円滑に行い速やかな給水能力の回復を図ることを目的としている。しかしながら、南海トラフ地震など大規模災害時には被害が広域に及ぶことが想定され、特に小規模事業体である1市4町においては職員数も少ないなか相互応援の実現性が懸念されるところである。このような中、日本水道協会による相互応援も含んだ応援体制の構築と広域的体制強化が必要と考えられる。

事業名	14 生活交通確保維持事業
-----	---------------

事業概要	圏域内を運行する路線バスやコミュニティバス等について、乗継利便性の向上等利便性の高い交通ネットワークを構築するとともに、利用促進を行い、圏域内の住民が町内の病院・診療所や中心市にある病院などの都市機能を利用するための日常生活に必要な公共交通の維持・確保をする。
事業効果	圏域内の公共交通を維持することにより、中心市の病院、高等学校、商業・公共施設等といった生活に必要な都市機能を圏域内の住民が広域的に利用することができる。

■ 重要業績評価指標(KPI)の状況

指標	現状値 (ビジョン掲載)	調査 時点	前年度実績	調査 時点	今年度実績	調査 時点	目標値	達成 年度	備考
バス利用者数	313,000人	R2 年度	357,249人	R4 年度	348,475人	R5 年度	350,000人	R8 年度	阿南市258,317人

■ 実績等の状況

R5 年度 の 取 組 内 容	圏域内の各自治体が地域の実情に即した取組みを実施し、また、運行事業者(徳島バス、阿南バス、南部バス等)と連携、協議の上、圏域内を運行する各路線の確保・維持を図ったことにより、高齢者や学生等の住民の日常生活する上で必要な移動手段を確保した。
-----------------------------------	--

■ 事業推進に係る特記事項 (今後に向けての展望、懸案・要望事項、反省点、所感等)

人口減少社会の本格化等により、バス等の地域公共交通サービスは、需要の縮小や経営の悪化、運転手不足の深刻化などにより、維持・確保が厳しくなっており、需要に応じたバス路線の見直しや新たな交通モードへの転換等が必要となっている。
--

事業名	15	高速自動車道整備促進事業
-----	----	--------------

事業概要	四国横断自動車道の早期完成、地域高規格道路阿南安芸自動車道の建設促進と併せて、高速道路「四国8の字ネットワーク」の早期完成を目指して関連する諸団体と協議、連携しながらミッシングリンクの解消に向けて取り組む。
事業効果	高速自動車道の建設を積極的に推進することにより、地域間の移動時間が短縮され、地域間交流が増大し、地域の産業や経済の活性化に繋がるとともに、災害対応や緊急医療においても圏域住民の安全・安心に大きく寄与すると期待される。

■ 重要業績評価指標(KPI)の状況

指標	現状値 (ビジョン掲載)	調査 時点	前年度実績	調査 時点	今年度実績	調査 時点	目標値	達成 年度	備考
高速道路関係会議・総会 参加回数	6回	R2 年度	5回	R4 年度	5回	R5 年度	4回	R8 年度	
要望活動回数	2回	R2 年度	6回	R4 年度	6回	R5 年度	4回	R8 年度	

■ 実績等の状況

R5 年度 の 取 組 内 容	一般国道55号・阿南安芸自動車道整備促進期成同盟会 幹事会 令和5年4月13日参加 一般国道55号・阿南安芸自動車道整備促進期成同盟会 総会 令和5年7月14日参加 徳島県南部地区四国横断自動車道建設促進期成同盟会 幹事会 令和5年4月21日参加 徳島県南部地区四国横断自動車道建設促進期成同盟会 総会 令和5年7月10日参加 四国8の字ネットワーク整備促進四国東南部連盟 四国地方整備局 要望活動 令和5年7月26日参加 四国8の字ネットワーク整備促進四国東南部連盟 中央省庁 要望活動 令和5年8月1日参加 四国8の字ネットワーク整備促進四国東南部連盟 総会及び四国東南部大会 令和5年10月20日参加 四国8の字ネットワーク整備促進四国東南部連盟 四国地方整備局 要望活動 令和5年10月30日参加 四国8の字ネットワーク整備促進四国東南部連盟 中央省庁 要望活動 令和5年11月27日参加 四国8の字ネットワーク整備促進四国東南部連盟 四国地方整備局 要望活動 令和6年1月24日参加 四国8の字ネットワーク整備促進四国東南部連盟 中央省庁 要望活動 令和6年2月15日参加
-----------------------------------	--

■ 事業推進に係る特記事項（今後に向けての展望、懸案・要望事項、反省点、所感等）

それぞれの市町の担当部局において定住自立圏の取組としての認識が薄く、定住自立圏は企画部局、総務部局がしているという認識である。忙しい業務の中で対応ができない状況があり、定住自立圏の取組の仕方として各市町の企画部局、総務部局がもっとリーダーシップをとって取りまとめして集約するべき。

事業名	16	国道55・193・195号整備促進事業
-----	----	---------------------

事業概要	圏域内の交通ネットワークの形成に重要な役割を担っている国道の整備を促進するため、地域の実情に応じた改良の提言を行うなど圏域市町が連携・調整を行い、既存の期成同盟会等への働きかけを中心に国・県に対して要望活動等を行う。
事業効果	地域の実情に応じた整備手法を提言するなど関係市町が連携して要望活動を行うことにより、圏域内の国道の整備促進を図り、更なる地域間交流を深め、地域の活性化、住民の安全・安心に寄与する。

■ 重要業績評価指標(KPI)の状況

指標	現状値 (ビジョン掲載)	調査 時点	前年度実績	調査 時点	今年度実績	調査 時点	目標値	達成 年度	備考
国道関係会議・総会参加回数	6回	R2 年度	7回	R4 年度	6回	R5 年度	5回	R8 年度	
要望活動回数	2回	R2 年度	3回	R4 年度	2回	R5 年度	2回	R8 年度	

■ 実績等の状況

R5 年度 の 取 組 内 容	<土木課> ○部会時に国道・県道関係について現状を聴き取り（那賀町）2回 ○四国国道協会 役員市町村課長会（WEB会議） ○四国国道協会 総会（愛媛県）阿南市長 ○明日の四国づくりを考える市長村長の会（WEB会議） 副市長 ○四国国道協会 四国地方整備局要望 阿南市長 <特定事業推進課> ●徳島県一般国道11号・55号整備促進期成同盟会総会 ●徳島県一般国道11号・55号整備促進期成同盟会要望活動
-----------------------------------	---

■ 事業推進に係る特記事項（今後に向けての展望、懸案・要望事項、反省点、所感等）

それぞれの市町の担当部局において定住自立圏の取組としての認識が薄く、定住自立圏は企画部局、総務部局がしているという認識である。忙しい業務の中で対応ができない状況があり、定住自立圏の取組の仕方として各市町の企画部局、総務部局がもっとリーダーシップをとって取りまとめして集約するべき。

事業名	17	県道(主要地方道)整備促進事業
-----	----	-----------------

事業概要	圏域内の交通ネットワークの形成に重要な役割を担っている県道(主要地方道)の整備を促進するため、地域の実情に応じた改良の提言を行うなど関係団体等と連携しながら国・県に対して要望活動を行う。 (主要地方道) 阿南驚敷日和佐線、阿南勝浦線、富岡港線、羽ノ浦福井線、日和佐小野線、由岐大西線、阿南那賀川線、阿南小松島線、阿南相生線、徳島上那賀線、由岐大西線、日和佐上那賀線、牟岐海南線
事業効果	地域の実情に応じた整備手法を提言するなど関係市町が連携して要望活動を行うことにより、圏域内の県道(主要地方道)の整備促進を図り、更なる地域間交流を深め、地域の活性化、住民の安全・安心に寄与する。

■ 重要業績評価指標(KPI)の状況

指標	現状値 (ビジョン掲載)	調査 時点	前年度実績	調査 時点	今年度実績	調査 時点	目標値	達成 年度	備考
県道関係会議・総会参加回数	5回	R2 年度	4回	R4 年度	2回	R5 年度	6回	R8 年度	
要望活動回数	3回	R2 年度	2回	R4 年度	0回	R5 年度	3回	R8 年度	

■ 実績等の状況

R5 年度 の 取 組 内 容	4月21日、7月10日に国道・県道関係について現状を聴き取り(那賀町)
-----------------------------------	-------------------------------------

■ 事業推進に係る特記事項 (今後に向けての展望、懸案・要望事項、反省点、所感等)

それぞれの市町の担当部局において定住自立圏の取組としての認識が薄く、定住自立圏は企画部局、総務部局がしているという認識である。忙しい業務の中で対応ができない状況があり、定住自立圏の取組の仕方として各市町の企画部局、総務部局がもっとリーダーシップをとって取りまとめして集約するべき。
--

事業名	18	地元農水産物魅力アップ事業
-----	----	---------------

事業概要	各市町が、地元で生産される農水産物の魅力を知ってもらうために開催しているイベントや圏域内で生産される農水産物、直売所などの情報を収集し、圏域内外に発信するとともに、圏域内共通ブランド化や6次産業化推進を検討し、地元の農水産物の消費拡大を図る。
事業効果	圏域内の地産地消を推進することにより、圏域内で生産される産物の魅力を再認識することにより、地域経済の活性化を図る。

■ 重要業績評価指標(KPI)の状況

指標	現状値 (ビジョン掲載)	調査 時点	前年度実績	調査 時点	今年度実績	調査 時点	目標値	達成 年度	備考
PR用品等の作成及び配布数	500部	R2 年度	230部	R4 年度	215部	R5 年度	1000部	R8 年度	

■ 実績等の状況

R5 年度 の 取 組 内 容	圏域で生産される農水産物の魅力を知ってもらうためのエコバックを作成し、イベント等において配布し、農水産物のブランド力アップと消費拡大を図った。また、農水産物をPRするためのパンフレットを配布した。
-----------------------------------	--

■ 事業推進に係る特記事項 (今後に向けての展望、懸案・要望事項、反省点、所感等)

圏域内の地産地消を推進することにより、圏域内で生産される農産物の魅力を再認識することによって、地域経済の活性化を図る。

事業名	19	空き家情報の連携事業
-----	----	------------

事業概要	各市町が個別に管理している空き家情報のHP掲載等による情報の共有化等、圏域市町で連携して移住・定住者への相談・支援体制の充実を図る。
事業効果	各市町で取り組んでいるU・I・Jターン事業の一部を共同で実施することにより、多様なニーズに応じた情報提供等が可能となる。

■ 重要業績評価指標(KPI)の状況

指標	現状値 (ビジョン掲載)	調査 時点	前年度実績	調査 時点	今年度実績	調査 時点	目標値	達成 年度	備考
空き家情報調査件数	68件	R2 年度	31件	R4 年度	41件	R5 年度	50件	R8 年度	年度末時点での空き家 バンク登録件数・阿南市
移住者への紹介件数	252件	R2 年度	128件	R4 年度	116件	R5 年度	200件	R8 年度	移住相談件数・阿南市

■ 実績等の状況

R5 年度 の 取 組 内 容	新たな空き家の掘り起こしを行い、利活用可能な空き家を抽出した上で、徳島県住宅供給公社に空き家判定業務(二次調査/利活用タイプ)を3件委託した。 利活用可能な空き家情報については、担当者間で随時共有し、移住フェアや相談会、窓口等において移住希望者へ情報提供を行った。
-----------------------------------	--

■ 事業推進に係る特記事項 (今後に向けての展望、懸案・要望事項、反省点、所感等)

空き家バンクの運用については、情報の持ち方及び情報の提供方法(自治体公式HP、移住HP、大手サイト、窓口等)が1市4町で異なるため、統一的な情報発信や情報共有が困難である。

事業名	20	野球のまち阿南推進事業
-----	----	-------------

事業概要	交流人口の拡大につながる野球(還暦・古希・実年・早起き・少年等)大会を開催することにより地域の振興を図る。
事業効果	平成20年から開催されている還暦大会は、県外から14チームが参加し約250人が訪れている。また、少年野球の交流大会では、県外から18チームが参加し約1,000人が訪れており、経済の活性化が期待できる。

■ 重要業績評価指標(KPI)の状況

指標	現状値 (ビジョン掲載)	調査 時点	前年度実績	調査 時点	今年度実績	調査 時点	目標値	達成 年度	備考
参加チーム数	19チーム	R2 年度	64チーム	R4 年度	60チーム	R5 年度	60チーム	R8 年度	

■ 実績等の状況

R5 年度 の 取 組 内 容	○第16回西日本生涯還暦野球大会(令和5年4月21日～23日) 県内外から24チーム、延696人が参加し還暦野球大会を開催した。(うち県外チーム10、延364人) ○阿南那賀美波杯交流大会(令和5年7月23日) 少年野球全国大会の初日に敗退したチームで交流試合を開催した。 県内外から17チームが参加。 ○第9回西日本500歳野球大会(令和5年10月19日、21日、22日) 県内外から17チーム、延377人が参加し500歳野球を開催した。
-----------------------------------	---

■ 事業推進に係る特記事項 (今後に向けての展望、懸案・要望事項、反省点、所感等)

西日本規模及び全国規模の大会を開催しているが、各会場の人員等不足により運営に支障がでている。 4町からの負担金は大会経費として活用 (大会経費:還暦大会 1,427,198円 少年全国及び交流大会 1,753,860円 500歳野球 959,827円) 大会開催に伴い、参加チームが各市町に宿泊することにより経済効果を上げている。 宿泊者数 R4 那賀町173人 牟岐町69人 海陽町20人 R5 那賀町254人 牟岐町50人
--

事業名	21	スポーツ大会交流促進事業
-----	----	--------------

事業概要	圏域内の各地域・施設の特徴を活かした各種スポーツ大会等を開催し、地域間の交流人口の増加を図る。
事業効果	圏域内の地域間交流により、地域ネットワークの形成、人づくり、健康づくりが促進される。また、圏域の魅力アップも期待できる。

■ 重要業績評価指標(KPI)の状況

指標	現状値 (ビジョン掲載)	調査 時点	前年度実績	調査 時点	今年度実績	調査 時点	目標値	達成 年度	備考
参加者数	131人	R2 年度	134人	R4 年度	104人	R5 年度	300人	R8 年度	

■ 実績等の状況

R5 年度 の 取 組 内 容	圏域内の各地域・各施設の特徴を活かしたスポーツ大会として下記の事業を開催し、地域間の交流を図った。 ・カヌーの練習会及び記録会(那賀町) ・水泳競技会(海陽町)
-----------------------------------	--

■ 事業推進に係る特記事項 (今後に向けての展望、懸案・要望事項、反省点、所感等)

地域の交流人口の増加に向け、他の種目の大会開催も含めた参加者数の増加策を検討する。
--

事業名	22	阿南市消費生活センターの周知及び利用推進事業
-----	----	------------------------

事業概要	圏域に向けて消費生活センターの周知を行い、圏域住民が困った時の相談窓口としての活用を促進する。
事業効果	圏域内の消費者の安全で安心な消費生活の実現をめざす。

■ 重要業績評価指標(KPI)の状況

指標	現状値 (ビジョン掲載)	調査 時点	前年度実績	調査 時点	今年度実績	調査 時点	目標値	達成 年度	備考
圏域構成町の利用件数	来訪7件 電話84件	R2 年度	来訪10件 電話67件	R4 年度	来訪112件 電話等293件	R5 年度	来訪8件 電話90件	R8 年度	

■ 実績等の状況

R5 年度 の 取 組 内 容	○消費生活センターに所長代理1名、相談事務員2名を配置し、センターの広域利用を進め、圏域内の消費者相談の充実や消費生活に関する情報の提供・啓発に努めた。 ○相談のあった事例等を、毎月各町へ情報を提供し、注意喚起及び被害防止に努めた。
-----------------------------------	--

■ 事業推進に係る特記事項 (今後に向けての展望、懸案・要望事項、反省点、所感等)

圏域が広いいため構成町からの来訪が少ない。電話より対面式の対応の方が相談者・相談員双方にとっても理解しやすく、説明もしやすいので、オンライン相談ができる仕組みを検討する必要がある。

事業名	23	スポーツ施設相互利用促進事業
-----	----	----------------

事業概要	関係市町の体育館、グラウンド、プール等の施設のうち、関係住民が利用する施設について、使用料の格差がある場合は原則として同等の条件で利用できるよう改める。ただし、減免規定については適用しない。
事業効果	関係市町の住民がスポーツ施設を平等に利用することにより圏域内のスポーツの振興、施設の利用促進及び住民の相互交流を図る。

■ 重要業績評価指標(KPI)の状況

指標	現状値 (ビジョン掲載)	調査 時点	前年度実績	調査 時点	今年度実績	調査 時点	目標値	達成 年度	備考
スポーツ施設相互利用促進事業	-	R2 年度	1,547人	R4 年度	1,686人	R5 年度	2,000人	R8 年度	

■ 実績等の状況

R5 年度 の 取 組 内 容	関係市町の体育館等スポーツ施設のうち関係住民の利用については、各市町における区域外加算の適用を除外し、スポーツ施設を同等の条件で利用できる環境としている。 このことにより、圏域内のスポーツの振興、施設の利用促進及び住民の相互交流を図った。
-----------------------------------	--

■ 事業推進に係る特記事項（今後に向けての展望、懸案・要望事項、反省点、所感等）

関係住民の利用者数の把握が困難である。 公用施設予約システムの導入により、圏域内利用者数の把握がより困難になる。指標を申請者数に置き換えるなどの見直しが必要と考える。
--

事業名	24	火葬場使用料軽減事業
-----	----	------------

事業概要	葬斎場の火葬使用料について、那賀町、美波町、牟岐町、海陽町の住民が利用する場合、市外料金を調整し、利用者負担額を1/2に軽減する。
事業効果	圏域内の公共施設の相互利用を促進する。

■ 重要業績評価指標(KPI)の状況

指標	現状値 (ビジョン掲載)	調査 時点	前年度実績	調査 時点	今年度実績	調査 時点	目標値	達成 年度	備考
火葬使用料軽減実施件数	191件	R2 年度	165件	R4 年度	191件	R5 年度	190件	R8 年度	

■ 実績等の状況

R5 年度 の 取 組 内 容	阿南市葬斎場を利用する場合、市外の方の火葬料は80,000円であるが、圏域自治体（那賀町、美波町、牟岐町、海陽町）の方の使用料を1/2軽減し、個人負担を40,000円とした。残る40,000円を各自治体で20,000円、阿南市で20,000円を負担している。
-----------------------------------	---

■ 事業推進に係る特記事項（今後に向けての展望、懸案・要望事項、反省点、所感等）

施設の老朽化により施設及び設備の営繕費用が増加している。火葬処理件数に応じた費用負担について検討する必要がある。 各年度修繕・工事請負費（H30年度 43,405千円、R1年度 29,018千円、R2年度 29,771千円、R3年度 29,354千円、R4年度 5,997千円、R5年度 8,810千円） ※R6年度見込み 53,000千円

事業名	25	子育て支援センターの相互利用に関する連携事業
-----	----	------------------------

事業概要	阿南市で開催している子育て支援事業(つどいの広場等)について圏域町の住民の利用促進を図るほか、圏域町における各子育て支援事業についての相互利用の検討等を行うことにより、圏域の子育て支援の充実を図る。
事業効果	里帰り出産時等に利用や、未就園児の親子が集える場が提供されることで、親子の孤立の防止、子育てアドバイザーへの相談等、子育てに対する不安解消につながる。

■ 重要業績評価指標(KPI)の状況

指標	現状値 (ビジョン掲載)	調査 時点	前年度実績	調査 時点	今年度実績	調査 時点	目標値	達成 年度	備考
利用者数	5,000人	R2 年度	4,772人	R4 年度	3,859人	R5 年度	6,000人	R8 年度	

■ 実績等の状況

R5 年度 の 取 組 内 容	認定こども園6園で実施する子育て支援センターは、新型コロナウイルス感染対策による人数制限を解除し、受け入れ幅を広げたが、参加する保護者の感染対策の意識が高まり、公立の子育て支援センターよりも民間で運営している新しい子育て支援事業所への人気が高まっている。 R5年度は、那賀郡と海部郡からの利用者は、0人だった。
-----------------------------------	--

■ 事業推進に係る特記事項（今後に向けての展望、懸案・要望事項、反省点、所感等）

阿南市、那賀郡、海部郡の子育て支援情報を発信し、保護者の利用する地域が拡大することによって、子育て親子のネットワークが広がり、地元以外の地域の魅力を発見することができ、広範囲での継続的な利用につながる。

事業名	26	女性支援パートナーシップ事業
-----	----	----------------

事業概要	・阿南市配偶者暴力相談支援センターにおいてDV被害者支援を行う。 ・阿南市が実施している「女性のための生き方なんでも相談」を圏域在住・在勤の女性に利用してもらい、充実した社会生活が営めるよう支援する。
事業効果	DV被害者支援のための連携した支援体制を構築し、広域で対応することによって被害者の早期発見、迅速な対応が可能になることから、安心・安全に暮らせる圏域づくりに寄与する。

■ 重要業績評価指標(KPI)の状況

指標	現状値 (ビジョン掲載)	調査 時点	前年度実績	調査 時点	今年度実績	調査 時点	目標値	達成 年度	備考
相談利用者数	79人	R2 年度	89人	R4 年度	260人	R5 年度	100人	R8 年度	

■ 実績等の状況

R5 年度 の 取 組 内 容	○広報あなん等による相談窓口の周知 ○ちらし等による相談窓口の周知 ○広域市町間の連携体制確認と強化 ○阿南市配偶者からの暴力被害者支援ネットワーク会議開催による庁外関係機関との連携確認 ○女性の抱えるあらゆる悩みごとの相談に応じ、阿南市配偶者暴力相談支援センターとの連携等によりDV被害者の発見・支援につなげることができた。
-----------------------------------	---

■ 事業推進に係る特記事項（今後に向けての展望、懸案・要望事項、反省点、所感等）

新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行いながら相談窓口を継続的に開設し、コロナ禍における対応として、女性のための生き方なんでも相談の対応時間枠に新たに土曜日を加え、オンラインによる対応を可能とした。配偶者暴力相談支援センターにおいては、令和5年3月より、阿南市LINE公式アカウントによる相談予約の受付を開始した。

事業名	27	職員人材育成事業
-----	----	----------

事業概要	圏域の自治体職員の職務遂行能力の向上を図り、地域をけん引する人材を育成するため、合同研修会等を実施する。
事業効果	・圏域内の政策課題が複雑・多様化する中で、住民要望に対応できる職員の育成が図られるとともに、各自治体職員間の相互理解が深まることが期待される。 ・参加可能な研修メニューの広がりや職員のスキルアップにつながるとともに、職員間の交流が深まることが期待される。

■ 重要業績評価指標(KPI)の状況

指標	現状値 (ビジョン掲載)	調査 時点	前年度実績	調査 時点	今年度実績	調査 時点	目標値	達成 年度	備考
研修実施回数	4回	R2 年度	6回	R4 年度	4回	R5 年度	4回	R8 年度	
圏域からの参加人数	62人	R2 年度	42人	R4 年度	20人	R5 年度	50人	R8 年度	

■ 実績等の状況

R5 年度 の 取 組 内 容	○マイナンバー制度及び情報セキュリティ研修 ・一般職員向け研修(135名 うち圏域7名:美波 研修2回6名、那賀 研修1回1名 参加) ・管理職向け研修(62名 うち圏域1名:美波 研修1回1名 参加) ○労働安全衛生(メンタルヘルス(セルフケア))研修 (30名 うち圏域4名:那賀 研修1回1名、美波 研修1回1名、牟岐 研修1回2名 参加) ○コンプライアンス研修(108名 うち圏域2名:美波 研修2回2名 参加) ○ハラスメント研修(421名 うち圏域6名:那賀 研修1回1名、牟岐 研修3回3名、海陽 研修1回2名 参加)
-----------------------------------	--

■ 事業推進に係る特記事項 (今後に向けての展望、懸案・要望事項、反省点、所感等)

今後ますます複雑多様化していく行政課題に対し、限られた職員の人員で対応していくため、研修等を実施する事で各職場における組織力の向上を図るための人材育成や、より働きやすい職場環境づくりを行うことが求められる。

懸案事項としては、研修参加率が上がるよう実施時期、開催場所、研修内容を工夫する必要があるが、圏域がより広域化されると調整が困難になることが挙げられる。

事業名	28	廃棄物の不法投棄撲滅に向けてのリーダー育成事業
-----	----	-------------------------

事業概要	廃棄物の不法投棄撲滅に向けて、各市町で連携して環境教育や環境リーダー育成を行う。
事業効果	環境教育や環境啓発リーダー育成を行うことによって、広域における環境問題に対する住民の意識向上し、不法投棄防止、環境保全をめざす。

■ 重要業績評価指標(KPI)の状況

指標	現状値 (ビジョン掲載)	調査 時点	前年度実績	調査 時点	今年度実績	調査 時点	目標値	達成 年度	備考
環境美化啓発展の開催	1回	R2 年度	2回	R4 年度	1回	R5 年度	2回	R8 年度	

■ 実績等の状況

R5 年度 の 取 組 内 容	廃棄物の不法投棄撲滅に向け関係市町村が連携し、不法投棄禁止看板の作成(海陽町の小中学生から図柄募集)と年度末に各小中学校にて啓発展示を行い、作品を通して家庭で環境問題について考える機会を持つてもらうことで、環境教育や環境リーダー育成に繋がった。
-----------------------------------	---

■ 事業推進に係る特記事項 (今後に向けての展望、懸案・要望事項、反省点、所感等)

圏域内の市町で連携を図りながら、今後の方向性について協議を行いたい。

事業名	29	成人大学講座連携事業
-----	----	------------

事業概要	圏域内の公民館等を拠点とした生涯学習を推進して地域リーダーを育成するため、阿南市が主催する成人大学講座を那賀町・美波町・牟岐町・海陽町の連携事業として開催する。
事業効果	地域をけん引する人材を育成するとともに、圏域住民の相互交流と学習機会の拡充が図られる。

■ 重要業績評価指標(KPI)の状況

指標	現状値 (ビジョン掲載)	調査 時点	前年度実績	調査 時点	今年度実績	調査 時点	目標値	達成 年度	備考
成人大学講座受講者数	0人	R2 年度	76人	R4 年度	98人	R5 年度	140人	R8 年度	
一般の受講者数	0人	R2 年度	7人	R4 年度	0人	R5 年度	5人	R8 年度	

■ 実績等の状況

R5 年度 の 取 組 内 容	○受講生98名(阿南市93名、那賀町2名、美波町1名、牟岐町1名、海陽町1名) ○必修講座6講座、選択講座4講座、計10講座を行った。 ▶必修講座 5月開講式・第1回講座「特殊詐欺対策」、6月第2回講座「医療」、10月第3回講座「歴史」、12月第4回講座「人権フェスティバル」、1月第5回講座「生涯学習推進大会」、2月閉講式・第6回講座「環境」 ▶選択講座 6月「スマートフォン講座」、9月「デジタルプラネタリウム体験」、11月「現地研修美波町散策」、11月「自衛隊施設内見学」
-----------------------------------	---

■ 事業推進に係る特記事項 (今後に向けての展望、懸案・要望事項、反省点、所感等)

○1市4町の事業であるが、圏域が広いとため、受講生の確保が問題である。現地研修は定住自立圏内で行い、阿南市と4町での住民の交流を図っている。特に海陽町の受講生の確保が困難になっている。
--

事業名	30	人事労務担当職員研修(交流)事業
-----	----	------------------

事業概要	圏域全体の行政力向上を図るため、職員の人事交流の可能性や多様な案件について情報交換を行い、問題解決に向けて研修(協議)を行う。
事業効果	専門性を有する業務において業務ノウハウを提供し合い吸収することで、圏域全体の行政力向上が図られる。

■ 重要業績評価指標(KPI)の状況

指標	現状値 (ビジョン掲載)	調査 時点	前年度実績	調査 時点	今年度実績	調査 時点	目標値	達成 年度	備考
情報交換により課題解決に繋がった件数(フィードバック)	年0件	R2 年度	0件	R4 年度	0件	R5 年度	年1件	R8 年度	

■ 実績等の状況

R5 年度 の 取 組 内 容	職員人材育成事業とあわせ、圏域対象の研修を実施する前に文書・メール等で研修参加要請等の交流を図った。
-----------------------------------	--

■ 事業推進に係る特記事項 (今後に向けての展望、懸案・要望事項、反省点、所感等)

職員人材育成事業とあわせ、今後ますます複雑多様化していく行政課題に対し、限られた職員数で対応していくために、圏域内の職員が協力して研修等を実施し、人材育成や職場環境づくりを行うことが今後も求められる。
--